

民間委託による水泳授業試行の検証と 令和7年度以降の水泳授業のあり方について



大野城市教育委員会教育政策課

報告内容

1. 民間委託による水泳授業の目的と試行の概要について
2. 現在までの取組について
3. 民間委託による水泳授業の様子について
4. アンケート結果と分析について
5. 検証について
6. 今後の水泳授業について
7. 今後のプール施設について

1. 民間委託による水泳授業の目的と試行の概要について

●民間委託による水泳授業の目的

1)児童生徒の泳力の向上

水泳授業は、児童生徒の安全を確保しながら、計画的で泳力に応じた指導が求められていますが、最近では、大雨や熱中症及び感染症対策に伴う授業回数の縮小や中止により計画的な実施が困難となっています。この様な状況であることから、指導の機会を確保し、泳力の向上を図る必要があります。

2)学校プール施設の維持管理費の削減

学校プールは、大野城市公共施設等マネジメント計画に基づき、ろ過機の更新や水槽の改修等を行っていますが、9割以上のプールが建設から30年を超過しています。また、プール施設の維持管理には、修繕費等に加え、保守点検費用や水道使用料金、薬品費等の経常的経費が必要です。

3)教職員の業務軽減

施設面や衛生面の観点から、安全に水泳授業を実施するため、日々のプール施設の清掃、水質管理等の施設管理が必要であり、教職員向けのアンケート(R4.12)では、水泳指導への時間が不足していることや、日常的な施設の維持管理が課題であることがわかりました。

1. 民間委託による水泳授業の目的と試行の概要について

●令和6年度実施概要

1)モデル校

大野南小学校(5. 6年生):楸スポーツクラブフェニックス

下大利小学校(1~4年生):宍つくし野スイミングクラブ

※両校とも、特別支援学級の児童も対象とし、その他の学年の児童は、学校でのプールでの水泳授業を実施しました。

2)移動手段

バスによる移動(実施校から水泳施設までの往復)

3)指導方法

受入人数に対する適切な水泳授業、指導ができるように、インストラクターを配置し、泳力別に複数のグループに分けた指導を実施しました。

4)安全対策

教職員及びインストラクターが、プールサイドでの監視をしました。

※特別に配慮を要する児童に対しては、教職員が入水し、安全への配慮と指導を実施しました。

2. 現在までの取組について

- 令和6年1月に、民間委託による水泳授業の試行の実施を決定し、試行を行う小学校2校及び民間事業者2社との協議を開始しました。
- 同2月に、民間委託による水泳授業の試行を先行して実施している古賀市の水泳授業を視察し、5月上旬に、学校運営協議会や、PTA総会において、保護者への説明を行い、6月中旬に民間事業者2社と契約しました。
- 水泳授業の試行の期間
 大野南小学校:6月19日から10月11日まで
 下大利小学校:6月27日から10月10日まで

年度	令和5年度							令和6年度								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
教育委員会	庁内調整	先進地視察	試行案・方針案作成	調整・契約送迎など 事前確認試行確認				夏期休暇	試行確認 アンケート作成	アンケート 結果作成	検証	次年度準備				
大野南小	試行調整		カリキュラム作成	保護者 周知	授業試行			授業試行 (10月中旬まで)	アンケート 回答	—	次年度調整					
下大利小																

3. 民間委託による水泳授業の様子について



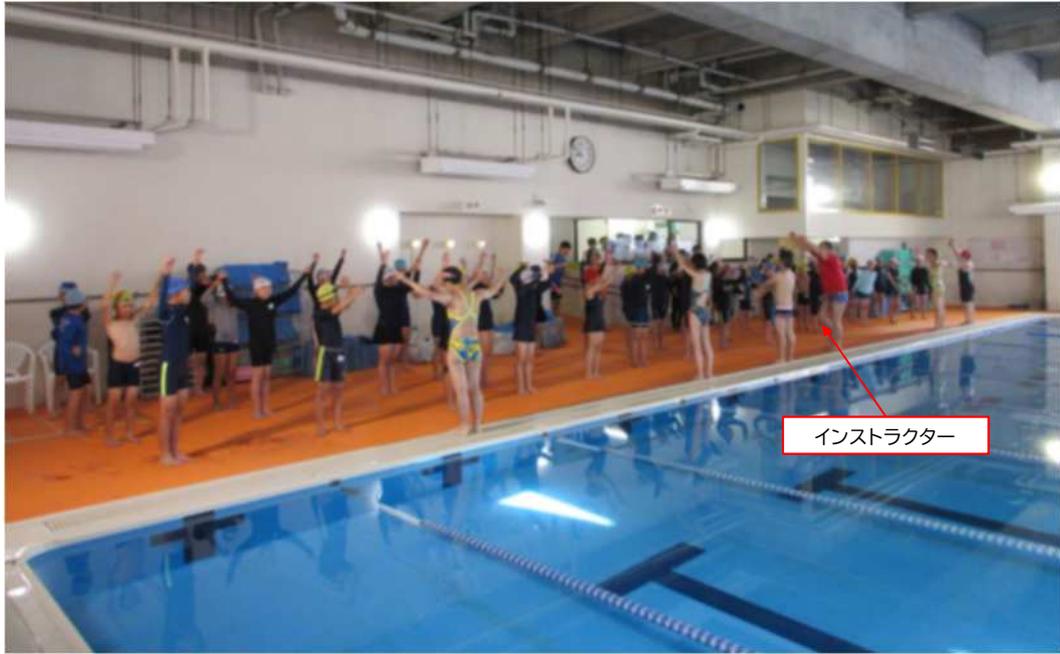
バス乗車状況



民間事業者施設到着及び着替え完了



注意事項等周知状況



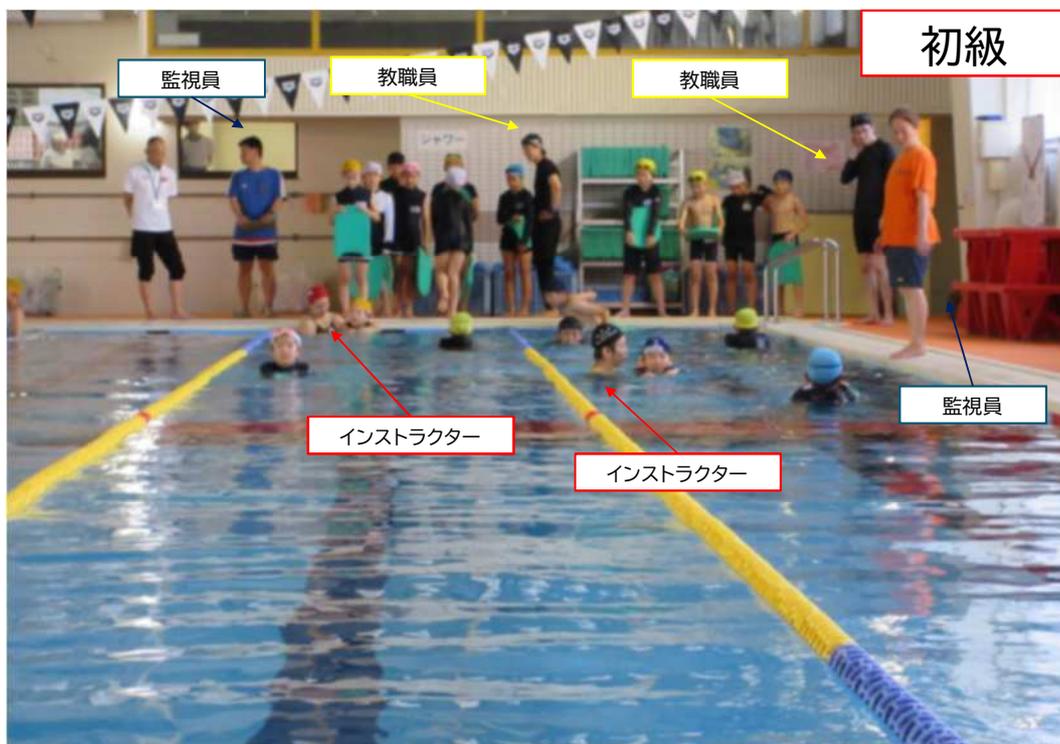
準備体操状況



入水前シャワー状況



泳力毎に分けた水泳授業状況



水泳授業状況



水泳授業状況



水泳授業状況



水泳授業状況



水泳授業状況



体調不良等児童見学状況



更衣状況



バス到着点呼状況

4. アンケート結果と分析について

1) 目的

児童、保護者、教職員に、試行の成果や、感想、今後の水泳授業への要望などを調査し、その結果を検証した後、今後の水泳授業のあり方を検討するため。

2) 期間・方法

令和6年10月28日(月)～令和6年11月8日(金) ・ webアンケート

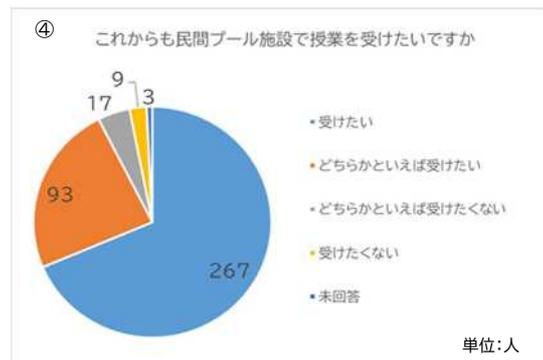
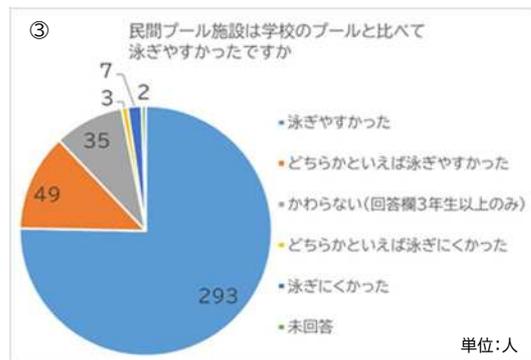
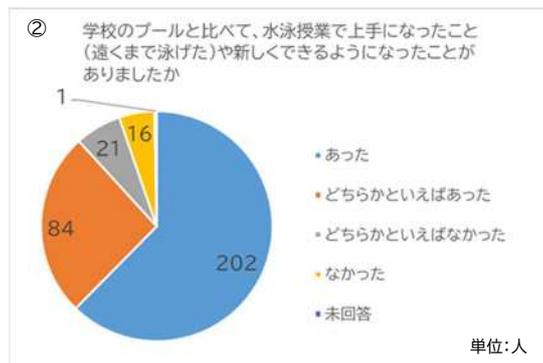
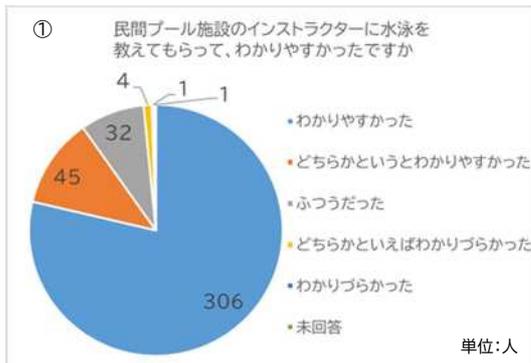
3) 対象者

- 児童：大野南小5.6年生児童、下大利小1～4年生児童(回答者数：389人 回答率：96.5%)
- 保護者：水泳授業の試行を経験した、児童の保護者(回答者数：234人)
- 教職員：水泳授業の試行に関わった、小学校の校長・教頭・主幹教諭・担任など(回答者数：20人)

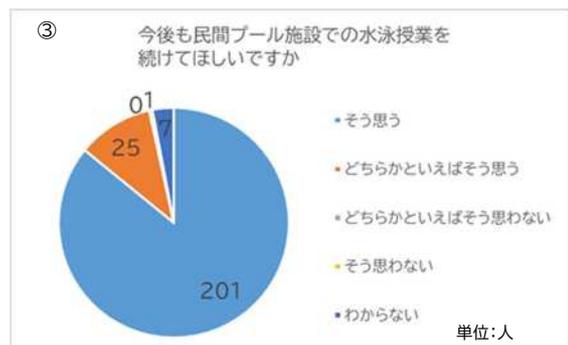
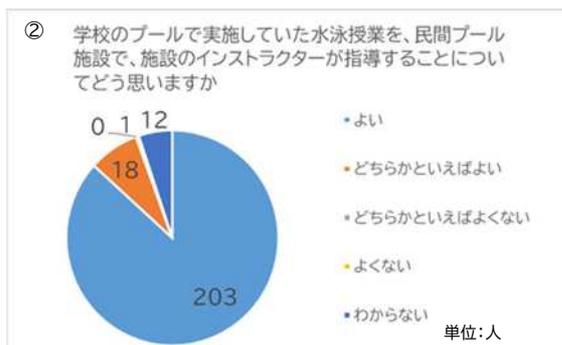
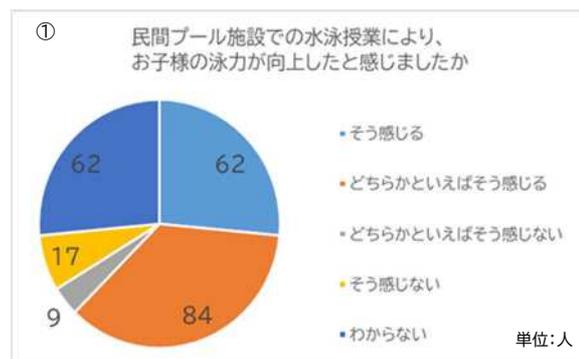
4) 主な質問内容

- 共通：①泳力向上について ②これからの民間プール施設での水泳授業について
- 児童：①水泳授業について ②民間プール施設の泳ぎやすさについて
- 保護者：①水泳授業を、インストラクターが民間プール施設で指導することについて
- 教職員：①バスでの移動について ②計画的な授業の実施について
- ③体力的、精神的な負担の軽減について

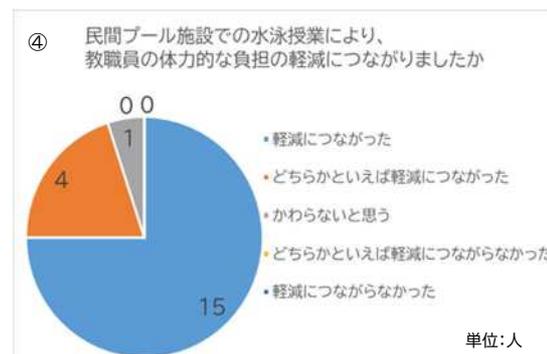
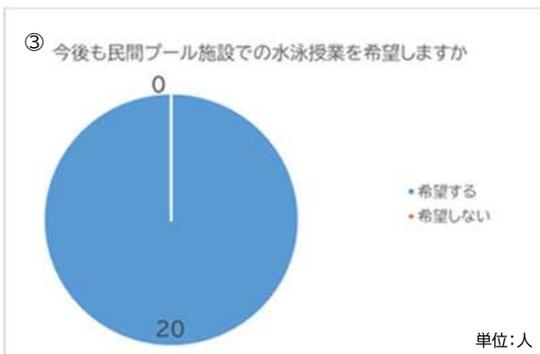
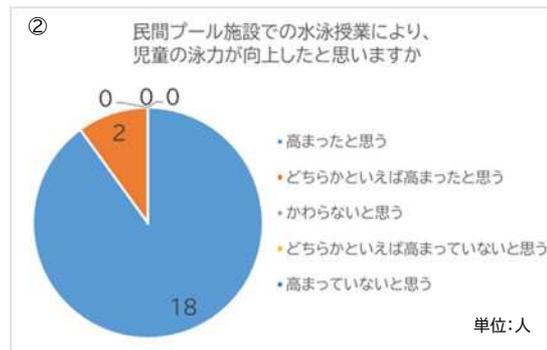
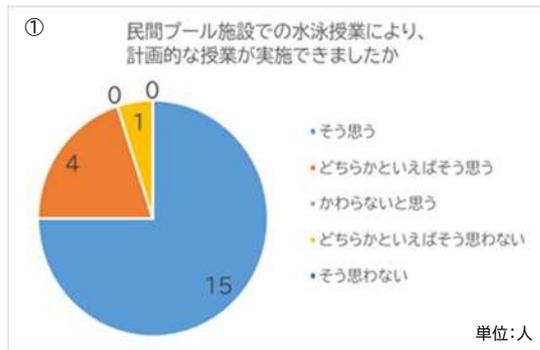
4. アンケート結果と分析について(回答者:児童)



4. アンケート結果と分析について(回答:保護者)



4. アンケート結果と分析について(回答:教職員)



4. アンケート結果と分析について

- ①多くの児童(88.2%)が、泳力向上を実感していること、保護者(62.4%)、教職(100%)も、児童の泳力向上を感じていることから、民間委託での水泳授業は、泳力の向上に効果があるものと思料します。
- ②多くの児童(90.2%)が、「インストラクターによる水泳授業はわかりやすかった」、「民間プールは学校プールよりも泳ぎやすかった」と回答していることから、より良い環境のなか、専門的な授業が実施されたものと思料します。
- ③民間プール施設で、施設のインストラクターが指導することについて、多くの保護者(92.8%)が好意的な回答をしていることから、保護者にも、一定以上の理解を得られているものと思料します。
- ④多くの教職員(95%)が、「バスでの移動について問題はない」、「計画的な授業ができた」と回答していることに加え、肉体的、精神的負担の軽減を実感(95%)していることから、教職員の業務の軽減に繋がるものと思料します。
- ⑤多くの児童(92.5%)、保護者(96.6%)、教職員(100%)が、来年度以降も民間委託での水泳授業を希望していることから、今後、民間委託での水泳授業を推進するべきものと思料します。

5. 検証について

【メリット】

- ① 気温や天候に左右されず、計画的な水泳授業ができました。
- ② 学校プールの使用を中止した場合、施設更新費用や修繕費に加え、保守点検費用や水道使用料金、薬剤費等の経常的経費の削減が見込めます。

【当初想定デメリット及び結果】

- ① 民間事業者施設までの移動時間の確保と移動時の安全確保が必要です。
⇒ 2コマ、3コマ連続での授業を行うことにより、移動時間の短縮と活動時間の確保が図れました。また、移動時は、事業者が所有するバスを利用し、安全に移動ができました。
- ② 時間割編成の調整が必要です。
⇒ 学校、民間事業者との事前調整により、時間割編成に問題はありませんでした。ただし、今後、対象校、対象児童が増えた場合は、更に調整が必要です。

【今後の懸案事項】

- ① 民間事業者施設の受入可能人数により、全校を受け入れられない可能性があります。
⇒ 学校、民間事業者との十分な協議と、事前調査により、各学校の状況に応じた実施形態をとるように配慮し、水泳授業に支障がないよう検討します。また、市外の民間プールの活用も積極的に検討します。

6. 今後の水泳授業について

- 1) 令和7年度から、大野南小学校、下大利小学校の全学年に対し、民間委託での水泳授業の本格実施を開始します。
- 2) 令和8年度から、小学校全校への民間委託による水泳授業を段階的に実施する計画です。
- 3) 授業時間を確保するために、民間プール施設への移動時間は、片道10分以内を原則とします。
- 4) 小学校の民間委託での水泳授業への移行の順番について
 - ① コミュニティ毎のバランスを考慮
 - ② 施設の劣化状況を確認
 - ③ 委託業者の実施可否を確認しながら、受入見込が整った学校から開始
- 5) 中学校については、以下の課題があることから、まずは、小学校への民間委託での水泳授業を優先します。
 - ① 各校の保健体育科の教職員が実施していること
 - ② 水泳の部活動を実施していること

7. 今後のプール施設について

- 小学校では、段階的に民間委託での水泳授業の移行を目指すことから、民間委託ができた学校については、修繕は行わず、それ以外の学校については、大規模な改修は行わず、プールの機能を継続できるための修繕を行います。
- 中学校についても、小学校と同様に大規模な改修は行わず、プールの機能を継続できるための修繕を行います。
- プール跡地の利活用について、先進自治体の好事例を調査するとともに、学校、地域、消防などと協議を進めます。
- 民間委託での水泳授業を実施する学校については、夏休みの学校プール開放を実施せず、保護者送迎を原則とし、近くの小学校及び北市民プールを利用してもらうことに変更し、利用方法を検討します。

終わりに

民間委託による水泳授業の目的である、

(1)児童生徒の泳力の向上

(2)学校プール施設の維持管理費の削減

(3)教職員の業務軽減

を主眼とし、児童生徒にとって、より安全でより効果的に水泳授業ができるよう、引き続き、計画的に民間委託による水泳授業を推進していきます。